

## 大学英語教育における専門英語「福祉の英語」の試みと実践への礎

齋藤 早苗

1998年にスタートした専門英語の「福祉の英語」は、急速に進む少子高齢化と、社会全体の中での福祉の在り方が問われるまさに時代の要請に応えるコースである。今日、人々の世界規模での移動や諸外国との交流が地域社会の日常生活にも浸透してきている中で、広い視野で見る福祉が求められてきている。この点から、外国語教育にも力を入れることが益々重要になってくるのではないか。事実、言語を通してより良いコミュニケーションを目指し、社会のために活躍したい、というニーズが高まっている。しかし、英語教育の現場では言語習得と同時に専門分野を学ぶ、という ESP approach を導入した英語の授業の可能性や実践方法については、あまり議論されてきていない。本稿では、この現実を踏まえ ESP の授業実践の第一歩、「福祉の英語」(半期コース)の試みについて項目を絞って述べたい。

**トピックの選択:** 福祉は人間に関わる総合学であるためトピックの選択を絞る必要がある。切り口として医療と看護、健康、高齢化と介護に焦点を当てる。具体的には介護問題、現代医療、

臓器移植など現代の社会問題を新聞、雑誌の記事を利用しながら探る。

### ESP導入による英語教育の利点:

上記のトピックの取り組みに必要な実践的な英語の四技能を伸ばしながら福祉分野の知識を身につけることを通して将来、英語を生かしての専門職を目標にすることができる。

### Integrate Language Skills :

実際の言語使用の場面ではある技能ひとつだけでコミュニケーションをすることは稀である。従って実践的な英語を目的とするならば四技能を統合した形態で指導することが望ましい。この点を踏まえて次のような授業を試みた。Listening : authenticity 達成のために映像メディアを利用し、トピックに関連した映画“Dad”, “Rain Man”等を基に listening を試みる。Task-based activities : task を基にした activities (oral presentation, role-play, discussion など)を通して英語による体験学習法を導入。この学習法では常に学習者が中心にいて task をこなしていく過程で英語を習得していく。主に speaking 向上を達成することが可能。Content base : 英語を使用しながら福祉問題に取り組むと

いう ESP 学習を实践。Reading と Writing : 上記の展開の枠の中で統合させながら実践する。

見聴きし、話し合う。さらに記事や本を読む。これらの作業の過程のまとめとして journal や reaction paper という形態の writing を行う。

課題：次の 3 点を挙げたい。(1) 半期の枠内で実践可能なシラバス作成の必要性 (2) 教材開発：介護、高齢化を取り扱った教材開発はニーズに追い付いていないのが現状。(3) ESP 英語教師の役割とその可能性。

## 結び

「福祉の英語」は、言語習得にとどまらず学生自身の視野と人間性を育んでいく上で大きな役割を占め、授業展開においても可能性が満ちているコースである、と確信する。今回の実践を礎として、一層の授業研究を続けていきたい。

(さいとう さなえ)

本学ランゲージセンター英語嘱託講師)